

平成29年度自己評価計画書(最終評価)

石川県立田鶴浜高等学校

| 重点目標 | 具体的取組 | 実現状況の達成度判断基準 | 集計結果 | 分析(成果と課題)及び次年度以降の取り組み(改善策等) |
|--|--|---|---|---|
| 1 本校の「スクールポリシー」「学力スタンダード」に基づいて、学習指導を実施し、看護師・介護福祉士に求められる学力の向上を図る。 | ① グループ学習、調べ学習、学び合い学習、ICT機器を効果的に用いた言語活動などの協働学習を積極的に取り入れる。 | 「先生は、ペア学習・班活動・話し合い等、協力して学ぶ機会を設けている」と評価した生徒の割合が A 80%以上 B 75%以上 C 70%以上 D 70%未満 である。 | 1年生 64.7% 2年生 71.3% 3年生 75.3% 専攻科 93.6% 全校 74.8% C | 中間評価と比較し、2.5%減少した。 高学年では、看護臨地実習・介護実習での経験を踏まえ、知識の統合や話し合いの場を積極的に取り入れている。 今後、1年生には、既存の知識・技術を活用する事例検討の機会を設ける。また、自分の意見を適切に表現できるように指導していく。 |
| | ② ICT等を活用した発表や討論、事例検討など、他者との対話、思考場面を適宜設定する。 | 「班活動等では、積極的に参加することができた」と自己評価をした生徒の割合が A 75%以上 B 70%以上 C 65%以上 D 65%未満 である。 | 1年生 64.2% 2年生 73.4% 3年生 81.1% 専攻科 94.3% 全校 79.3% A | 中間評価と比較し、1年生が9.3%の減少、2年生2.5%増加、3年生14.9%増加、専攻科生10%増加している。 生徒の学習意欲を喚起する課題や集団思考にふさわしいテーマ設定をするように工夫した。 今後、1年生には、思考に必要な基礎的知識の定着を図る。グループ活動で深めた考えを、全体で共有し、個人思考によって振り返る時間を設けることや思考を促す良質な発問をする必要がある。 |
| | ③ ICT機器、視聴覚教材を効果的に活用し、生徒の学習への関心を高め、内容の理解を促す。 | 「授業は興味深く、学習意欲がわくように工夫されている」と評価した割合が A 80%以上 B 75%以上 C 70%以上 D 70%未満 である。 | 1年生 69.6% 2年生 77.2% 3年生 75.0% 専攻科 92.6% 全校 77.3% B | 中間評価と比較し、0.1%減少している。 「生徒の主体的な思考を促す指導法の開発・実践」をテーマに研究授業を6回実施した。ペア・グループ活動、ICT機器の効果的な活用、他者と協働する場面を設定した。 今後、特に1・2年生で、生徒が主体的に思考する場面を意図的に設定する。具体的事例から知識を活用し、問題解決を目指す経験を通して学習意欲の喚起を図る。 |
| 学校関係者評価委員会の評価 | アクティブラーニングやICTを取り入れた授業が定着し、生徒の授業に対する肯定評価が学年を追う毎に上昇している。先生方の指導・研究の成果である。1年生は広域から集まっている為、中学と本校の学び方にギャップがないよう努めるとよい。 | | | |
| 学校関係者評価委員会の評価 結果を踏まえた今後の改善方策 | <ul style="list-style-type: none"> 生徒の学習意欲・関心を高め、生徒主体の学習活動が定着するよう、引き続き指導体制の充実を図る。 看護師・介護福祉士に求められる基礎知識を定着させ、一層の学習向上に努める。また、高校生と専攻科生の達成基準を別にし、専攻科生にはより高い基準を設け指導の充実を図る。 | | | |

| 重点目標 | 具体的取組 | 実現状況の達成度判断基準 | 集計結果 | 分析(成果と課題)及び次年度以降の取り組み(改善策等) |
|--|---|---|---|---|
| <p>2 専門教科指導をより充実させて、専門職に就く者としての資質の向上に努め、看護師・介護福祉士国家試験全員合格を目指す。</p> | <p>① 専門教科の知識・技術の確実な定着を図るため、目標レベルに達するまで補習・個別指導を実施する。</p> <p>② 専門教科の知識・技術の確実な定着を図るため、目標レベルに達するまで補習・個別指導を実施する。</p> <p>③ <1,2年生> 継続して学習することで、学習習慣を身につける。</p> <p><3年生> 分野ごとの小テストや個別指導を実施し、専門知識の確実な定着を図る。</p> | <p>偏差値40未満の生徒が A 0人 B 2人 C 4人 D 5人以上 である。</p> <p>偏差値40未満の生徒が A 0人 B 1人 C 2人 D 3人以上 である。</p> <p><1,2年生> 課題を提出する生徒の割合が A 100% B 95%以上 C 90%以上 D 90%未満 である。</p> <p><3年生> 国家試験演習及び国家試験の個々の得点率65%以上の生徒の割合が A 100% B 95%以上 C 90%以上 D 90%未満 である。</p> | <p>1年生 0人 評価A</p> <p>2年生 1人 評価B</p> <p>3年生 1人 評価B</p> <p>専1年生 模試(1月下旬) 2人 評価C</p> <p>専2年生 模試(1月中旬) 0人 評価A</p> <p>看護師国家試験全員合格</p> <p>1年生 92.7% C</p> <p>2年生 94.5% C</p> <p>3年生 97.4% B</p> | <p>1月模試結果 <1年> 専門総合偏差値(56.9)。基礎看護(57.1)、基礎医学(55.2)である。基礎知識の定着がされつつある。模試の調べ学習や課題を通して確実に知識が定着する学習方法を身につけさせる。 <2年> 専門総合偏差値(54.4)。基礎看護(51.5)、基礎医学(54.4)である。模試の調べ学習や課題を通して確実に知識が定着する学習方法を身につけさせる。また、学習習慣の確立が不十分な生徒への関わりを強化し、自律的な学習ができるよう指導する。 <3年> 専門総合偏差値(53.3)。基礎看護(51.7)、基礎医学(54.1)である。クラス全体に確実な知識定着と思考力の強化を図るための課題提示と丁寧な調べ学習の指導を継続して行う。 <専1年> 基礎力模試において全国偏差値60.2。考查や模試直しを徹底させ全体的に基礎知識が定着してきた。今後、知識・技術を活用し状況判断力や問題解決力の向上を目指す。学習不足の生徒には個別指導を継続する。 <専2年> 総合偏差値54.0。模試直しの徹底、個別指導の継続、苦手科目や新出題基準を意識した補習を実施。また、クラス全体で教え学び合う体制になるよう支援を重ねた。看護師国家試験問題と結果を分析し、次年度の指導につなげる。</p> <p><1年> 2学期には4.8ポイント上がりB評価となったが、3学期が下がったことから年間を平均すると、92.7%C評価であった。自分のしている学習に達成感を感じたり自分の成長を感じるものとなるように進めていくことにより家庭学習が定着すると考える。 <2年> 3学期には、96.8%であったが、年間を平均すると94.5%C評価となった。毎日の家庭学習の必要性を十分に理解していない生徒もいたため個別面談を行うことにより成果がでた。来年度は、学習方法や家庭学習の必要生について説明する時間をもっと増やしていく。 <3年> 国家試験の自己採点では、個々の得点率65%以上の生徒の割合が97.4%であった。出題傾向が変わったことと生徒理解が不十分だったことによる結果である。生徒理解の早期対応と国家試験に向けた学習内容の改善を行う。</p> |
| <p>学校関係者評価委員会の評価</p> | <p>国家試験の時期に合わせて学力を積み重ねることが出来ている。課題や今やるべきことの目的を理解させ取り組ませてもらいたい。学年に応じた工夫と地道な努力で看護・福祉とも国家試験合格の継続を。</p> | | | |
| <p>学校関係者評価委員会の評価 結果を踏まえた今後の改善方策</p> | <p>・1年次より家庭学習定着の為個別指導を強化、毎日の学習活動支援を地道に行い、国家試験合格まで持っていく。</p> | | | |

| 重点目標 | 具体的取組 | 実現状況の達成度判断基準 | 集計結果 | 分析(成果と課題)及び次年度以降の取り組み(改善策等) |
|--|--|---|--|---|
| 3 課外時間を用いた健康指導を充実させ、看護師・介護福祉士に求められる健康な心・体の育成を図る。 | ① 部活動の参加率向上を図る。 | アンケートにて、「部活動に90%以上参加できた」の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 である。 | アンケートの結果、「部活動に90%以上参加することができた」と答えた生徒の割合は57%である。 評価 D | アンケートの結果より、1学期の結果から3ポイント減少した。例年、部活動の参加傾向が低下する時期として文化祭前後、新入大会後が挙げられる。今年度は文化祭前に、活動時間の確保を促す声かけを行ったが、生徒の意欲はクラスの出し物等へ傾き、参加率の向上には至らなかった。また、実習時期の変更もあり、新入大会に向けたモチベーションの維持・向上が難しかったように思える。本校の部活動のあり方について指導や計画の見直しが必要であると考ええる。 |
| | ② 縄跳びの実施により、自己記録の更新に努めながら、あきらめない態度の育成や体力の向上を図る。 | 3分間で縄跳びを300回以上跳べる生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 である。 | 1年生 92.5% 2年生 90.7% 3年生 88.3% 全校 90.5% A | 1学期末時点では全校で45.7%という結果であったが、2学期以降も授業内での取り組みを続けることにより、全体的に数値が上がった。生徒同士での声の掛け合いや教え合い、ipadを活用してフォームの確認を行ったことが功を奏したと考えられる。次年度以降も生徒の体力向上に向けて取り組みを続けていきたい。 |
| | ③ 立ち止まって丁寧に挨拶をすることができるよう継続指導する。 | 保護者アンケートで「立ち止まっての挨拶ができています」との回答が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 である | 保護者懇談時にとったアンケートの結果から、立ち止まっての挨拶が できている 89.8% できていない10.2% B | 1学期の保護者懇談時にはできていたという評価が85.3%であったので、今回は微増。継続して日頃からの粘り強い指導が必要であると感じられる。次年度以降は100%に近い結果になるよう、挨拶力の向上を目指す。 |
| | ④ いじめに係わる相談や聞き取りを主とした個人面談を定期的・継続的に行うことでいじめ防止に努める。 | 1年間を通して、いじめに係わる個人面談を行った回数が A 5回以上 B 4回以上 C 3回以上 D 2回以上 E 2回未満 である。 | A 5回以上 | 1年を通して、担任による面談・部活動顧問と実習担当者による面談を行った。教職員の側から積極的に声かけを行ってきたことで、生徒が抱えている人間関係の悩みや進路に関する悩み等、様々な相談をしやすい環境が整えられてきたと考えられる。次年度以降も継続して取り組んでいきたい。 |
| 学校関係者評価委員会の評価 | 本校生徒は礼儀正しく挨拶も素晴らしい。看護・福祉ともに人を相手にする職業であり、コミュニケーション能力が重要。社会に出た時に必要な「他者を尊重できる心」を育てて欲しい。 | | | |
| 学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策 | <ul style="list-style-type: none"> ・行事の多い本校における部活動の在り方を見直し、看護師・介護福祉士に必要な体力、忍耐力などの育成に努める。 ・立ち止まっての挨拶の継続指導、いじめの対応に関する目標設定を検討し、健康・健全な心を育てる。 | | | |

| 重点目標 | 具体的取組 | 実現状況の達成度判断基準 | 集計結果 | 分析(成果と課題)及び次年度以降の取り組み(改善策等) |
|---|---|--|-----------------------|--|
| 4 本校の特色ある教育活動や、地域の医療・福祉を支える人材の必要性等の広報に努め、志願者の増加を図る。 | ① 体験入学、学校説明会と並行して、学校公開日、学校祭等の行事への中学生の参加者増を図り、本校の教育活動への理解を深める。 | 健康福祉科の一般入試の志願者数が募集定員を A 大きく上回った。 B 上回った。 C 下回った。 D 大きく下回った。 | 一般入試志願者数 21名 C | 昨年度の1.5倍の健康福祉科志願者数があり募集定員を確保した。 体験入学・地区説明会・個別説明会を開催し、進路選択に資するきめ細かな説明をした。また、学校公開・学校祭に中学生を招待し、本校の教育活動への理解が深まるように努めた。県内全中学校を訪問し、進路担当者に健康福祉科に関する情報を提供した。 来年度も、介護福祉士資格取得の意義、健康福祉科卒業後の進路、人間力を育成していることなどが明確に伝わる広報活動を継続して行う。 |
| | ② 小・中学校への福祉の出前授業や本校での交流学习を実施する。 | 小・中学校での福祉の出前授業や本校での交流学习の実施回数が A 25回以上 B 20回以上 C 15回以上 D 15回未満 である。 | 12回 D | 目標値にはまだまだ届かないが、延べ人数は前年度よりも165名多い414名の児童・生徒に福祉についての授業と本校理解の交流会を実施することができた。内容についても本校の生徒と楽しみながら行うことができたため、イメージアップに繋がったと思われる。 来年度は、出前授業や交流学习の内容の改善を行い、よりイメージアップできるようにする。また、小・中学生の福祉に対する興味・関心度の上昇率や理解度を指標とする。 |
| 学校関係者評価委員会の評価 | 小学校への出前授業は早い気もするが効果はある。範囲を広げていく。福祉のイメージは社会・政治が変わらないと難しいが、地域の医療福祉を支える人材育成は重要である。本校の実績は素晴らしい、あらゆる機会をみつけてPRを。 | | | |
| 学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策 | ・本校衛生看護科・健康福祉科の特色ある、そして魅力ある教育活動について、様々な機会をとらえ情報発信に努める。特に健康福祉については、引き続き地域や関係機関・施設などと連携し、負のイメージを払拭できるよう努めていく。 | | | |